

## 第8期第6回さいたま市公民館運営審議会 議事録

### 1 開催日時

平成28年9月23日（金） 午後1時から2時40分まで

### 2 開催場所

生涯学習総合センター 7階 講座室1・2

### 3 出席者名

〈委員：11名〉

- ① 佐伯 加寿美 副委員長
- ② 青木 光美 委員
- ③ 青山 鉄兵 委員
- ④ 碓井 麻由美 委員
- ⑤ 加藤 正晴 委員
- ⑥ 黒岩 清 委員
- ⑦ 田中 徳代 委員
- ⑧ 長谷部 美紀代 委員
- ⑨ 松村 有香 委員
- ⑩ 山崎 秀雄 委員
- ⑪ 山田 玲子 委員

〈拠点公民館職員：9名〉

- |                |        |
|----------------|--------|
| ① 西区 指扇公民館長    | 鈴木 庄蔵  |
| ② 北区 大砂土公民館長   | 山本 修一  |
| ③ 大宮区 桜木公民館長   | 森田 隆之  |
| ④ 中央区 鈴谷公民館長   | 佐藤 賢一  |
| ⑤ 浦和区 岸町公民館長   | 大嶋 真浪  |
| ⑥ 桜区 田島公民館長    | 押田 龍彦  |
| ⑦ 南区 文蔵公民館長    | 三上 富士夫 |
| ⑧ 緑区 大古里公民館長   | 藤光 若人  |
| ⑨ 岩槻区 岩槻本丸公民館長 | 宮崎 通夫  |

〈事務局：6名〉

生涯学習総合センター

- ① 館長 戸張 豊一
- ② 副館長 小川 栄一
- ③ 主幹 西渕 亮

- ④ 事業・企画係長 荻原 唯史
- ⑤ 事業・企画係主任 榎 進吾
- ⑥ 社会教育指導員 西山 尚子

#### 4 新任委員の紹介

新たに委員となられた山田委員の紹介を経て議事に入った。

#### 5 議題

- (1) 公民館と青少年・若者のつながりについて（現状の把握・課題の整理）

#### 6 配布資料

- (1) 会議次第
  - (2) 第8期第6回さいたま市公民館運営審議会出席者名簿
  - (3) 第8期第6回さいたま市公民館運営審議会席次表
  - (4) 第8期第5回さいたま市公民館運営審議会議事録（案）
  - (5) 平成28年度 青少年・若者に関する公民館事業計画書（資料1）
  - (6) 青少年・若者に関する事業実施報告書（資料2）
  - (7) 公民館「青少年・若者向け講座」実施に向けてのニーズ調査 概要（案）（資料3）
  - (8) 公民館「青少年・若者向け講座」実施に向けてのニーズ調査 実施箇所一覧（案）（資料4）
  - (9) 公民館「青少年・若者向け講座」実施に向けてのニーズ調査（案）（資料5）
- 別途配布 平成28年度さいたま市公民館要覧

#### 7 公開・非公開の別

公開

#### 8 傍聴者の数

1名

#### 9 会議

会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

#### 10 審議内容

審議冒頭前回（第8期第5回さいたま市公民館運営審議会）の議事録について、承認を経て議事に入った。

佐伯副委員長	それでは、議題（1）公民館と青少年・若者のつながりについて（現状の把握・課題の整理）について、事務局より説明をお願いします。
--------	--

議題（１）「公民館と青少年・若者のつながりについて（現状の把握・課題の整理）」に関するものとして、「平成２８年度 青少年・若者に関する公民館事業計画」および今後の生涯学習総合センターおよび各区公民館の事業実施後の報告スケジュールについて、事務局より（資料１）に基づき説明したのち、今年度すでに実施した西区、北区、大宮区、桜区の事業について、各拠点公民館長より、実施報告を（資料２）に基づき説明した。

佐伯副委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>事業を実施した４区からいただいた報告について、各委員から質問等ありましたらお願いします。</p>
青木委員	<p>とても楽しそうな事業だと思いますが、このようなイベントを実施する際には、興味を持って、情報を取ってもらえるかという一つの壁と、いいなどは思ったけれど、その先の行動を実際にしてもらえるかという二つの壁があると感じます。今回の４区にはいずれかの壁があったのではと思います。情報発信ということで、各区でわかりやすいチラシを作成されたり、直接学校へ行かれたり、ウェブを利用されたとのことですが、私も仕事で情報拡散ということをやっている、最近感じていることは、メディアごとに利用する年代が異なるということです。今後、アンケートで結果が出ると思うのですが、フェイスブックは、３０代から４０代の方がよく使うというのが私たちの感じているところです。私たちのところに来ているインターンの学生さんからは、ほとんど使っていないという話もあり、私たちが思うウェブツールと、今の若い方が使うウェブツールには差が出ていると思うので、今後、そのようなところをアンケートで明らかにしていくと、有益な情報の提供先として、まず一つの壁についての参考になると思います。あとは、意外と口コミを大事にしているというところがあるのかなと思っていて、よくわからない、ちょっと遠い場所と感じられる公民館だからこそ、行っている方から直接誘われた方が、安心感があるのかなと感じていて、そのことを考えると、これまでの事業も含めて、開催報告というところに力を入れていく段階なのかなと思います。とても楽しそうで、参加したかったけれど、一人で行くには勇気がいるし、見送った方がいたとして、その方が、ウェブなどで今回このようなイベントを開催して、こういう感想があつて、このような内容の講座をまた来年企画するので、よかったら参加してね、というようなものを見れば、行けばよかったと思われて、それが次の集客につながるのではないかと思います。館内の掲示などでも良いと思うので、実施した後の開催報告を丁寧にアウトプットして、実際どうだったのか、どういう声があつたのかということを中心にシェアしていくと、それを通して、若い人に対して、来てもいいんだなということが伝わって、参加していいのかわからない、一人では怖いといった方への後押しになるのではないかと思います。</p>
佐伯副委員長	<p>ありがとうございます。インターンの学生さんという話題がありました</p>

	が、どのようなツールを使っているとか、そういった話がありますか。
青木委員	ラインを使っているという話はかなりしていて、ツイッターも併用しているようですが、やはり友達との個々のやりとりなどはラインの方が多いようです。松村委員は現役世代として、いかがですか。
松村委員	今は、フェイスブックよりも、インスタグラムやツイッターがメインになっていて、たしかにフェイスブックはあまり使っていないかなと思います。
青木委員	インスタグラムは、文章をあげる必要が無いので、チラシだけでも気軽に投稿できるというところが楽しいという話を聞いたことがあります。
佐伯副委員長	ありがとうございます。他にはいかがですか。
黒岩委員	4区の説明を聞き、それぞれが苦勞をされて実施されたと思いますが、どちらも来てほしい年代が集まっていないような気がします。今まではこういった事業を実施していなかったと思うのですが、こういったチャレンジを行うことは大事なので、引き続き実施していただいて、だんだんと浸透していけば、若い方々にも来ていただけるのではないかと期待しているところです。一つお聞きしたいのですが、各区でそれぞれ参加費をどのように設定されたのでしょうか。
鈴木指扇公民館長	材料費として、1, 200円をいただきました。
山本大砂土公民館長	無料です。大宮アルディージャの協力もあり、実施することができました。
森田桜木公民館長	無料です。
黒岩委員	講師への謝礼は支払ったのでしょうか。
森田桜木公民館長	公民館の経費でお支払いしました。
黒岩委員	どのくらいお支払いしたのですか。
森田桜木公民館長	1回1万円です。
黒岩委員	ありがとうございました。桜区はいかがですか。
押田田島公民館長	無料です。
佐伯副委員長	ありがとうございました。他にはいかがですか。
田中委員	桜区の環境と民話の講座について、広報として、事前に講師の勤務先にてミニイベントを行ったとのことですが、ここにはどのくらいの方が集まったのでしょうか。
押田田島公民館長	ミニイベント自体にどのくらい集まったかについての正確な人数は把握しておりませんが、会場の大崎公園は小動物園などが一緒にあるもので

	<p>すから、小さなお子さんを連れて来た方というのが主な利用者層で、講師の方がイベントを行う際には、ある程度の人数が集まっていたと聞いております。職員が持参したチラシについては、100枚程度配布したとのことでしたので、そのくらい的人数は集まっていたのではないかと考えております。</p>
加藤委員	<p>皆さん、大変骨を折っていると思うのですが、参加者を集めるのが大変だったのではないかと印象です。一つご質問したいのが、事業のテーマについて、どのようにして決定されたのでしょうか。例えば、西区の内野公民館では、江戸前寿司の講座を実施するに至って、どんな形で決めていったのか、というように、それぞれ、飛びつきの良いテーマではないかと思うのですが、相手は公民館に馴染みがないから、チラシをみて判断して自分で参加しようと思うけれども、前例がなかったから参加しにくかったとか、そういうことがあったと思います。そのような中で、どのようにテーマを設定したのか、お聞かせ願えればと思います。</p>
佐伯副委員長	<p>それでは、各館長よりお願いします。</p>
鈴木指扇公民館長	<p>昨年の審議会において、試行的ということで実施しましたが、正直、西区では青少年・若者というターゲットについては手探りの状態でした。ただ、漠然と青少年という形では、集まるのが既婚者あるいはこれまでの利用者ということになってしまうので、敢えてこれまで皆無に等しいという独身者ということを入言に入れて、実施したという経緯がございます。</p>
山本大砂土公民館長	<p>北区の「Jリーグ女子になろう！」ですが、これはタイトルのとおりです。公民館では〇〇教室、〇〇講座という、どちらかといえば、お堅い感じになるのですが、講師のJユニ女子会の方と公民館職員の思惑が合致したのが、興味を引く、これって何だろう、と思わせるようにするということで、さいたま市は「サッカーのまち」でもあることから、若者の心をちょっとくすぐってみようか、という点からテーマを設定し、それがそのまま講座の内容となっています。言葉がわるいかもしれませんが、そういうノリでテーマを設定しました。</p>
森田桜木公民館長	<p>大宮区では、若者に関する事業のノウハウがないところでしたので、では公民館で実施しやすいもの、かつ周辺を見回した時にニーズがありそうなもの、ということで、鐘塚公園でダンスを練習している子どもたちが周辺におりましたから、ヒップホップダンスが良いのではないかとということで、そのような子たちが来てくれるのではないかとということで設定しました。その中で、一つ担当者の強い思いがあり、ただ技術の向上だけではなく、仲間づくりもしなければならぬ。ただ、参加者は技術の向上を目的に集まるなかで、どのように仲間づくりをしていくかということで、初心者も入れて、みんなで一つの曲をとおして踊って、仲間づくりを形にしていくということを入れて、テーマづくりをしました。</p>

押田田島公民館長	桜区では、「郷土の環境と民話を知ろう！」というテーマでしたが、これは地域的なものということで、市の郊外に立地していることもあって、こういった内容を若い方にも知っていただきたいということと、世代間交流も一つの目的として、若者とある程度お年を召した方が交流を図れたらいいなということでテーマを設定しました。
佐伯副委員長	ありがとうございました。時間もありますので、次に進んでいきたいと思っておりますので、事務局にてお願いします。

議題（１）「公民館と青少年・若者のつながりについて（現状の把握・課題の整理）」における〔公民館「青少年・若者向け講座」実施に向けてのニーズ調査〕について、事務局より（資料３）・（資料４）・（資料５）に基づき説明した。

佐伯副委員長	ありがとうございました。まず伺いたいのですが、すでに予定の時刻を大幅に経過しております。時間の都合もあると思っておりますので、本日お話しただけなかった部分については、事務局にてまた意見票をいただくなどの対応をしていただけますでしょうか。
荻原・事業企画係長	前回と同様、審議会終了後に意見票を作成し、皆様からのご意見を集めさせていただき、事務局から、ご意見を踏まえた修正案のやりとりをさせていただきながら、次回１１月の審議会へつなげさせていただきたいと考えております。
佐伯副委員長	それでは、本日は時間を区切ってご意見をいただき、また話し足りない部分につきましては、意見票にてご記入をいただくという形にてお願いいたします。
山崎委員	前回欠席してしまい申し訳なかったのですが、議事録を読ませていただき、事務局に意見票を出させてもらいましたが、今期の諮問の中身が青少年と地域をつなげる公民館活動、それがいつの間にか、青少年と公民館をつなげる事業づくりのような方向にどんどん流れているんですね。先程、４館からの説明がありましたが、日進公民館が近所なので、この事業に取り組んでいる職員にも話を聞いたのですが、それは人集めが大変だ、苦勞しているとのことで、公民館単独で若い者を呼び込むということには限界があるのではないかと。今回の４館の実績を見ても、例えばこれを年１回のところを、年２回、３回実施したとしても、どれだけ呼べるか。公民館単独で人を集めるには限界があるので、そこで地域と連携して人を呼ぶしくみにしていかないと、地域と若者をつなげる、そこに公民館が役割をもつという方が、これからの方向性、諮問に対する答えはそこではないかと思うので、意見を伝えさせていただいたのですが、アンケートを見ると、短くするという事は良いと思うのです。いろいろ書くということは難しいですから。一番期待したことは、設問３のところ、地域と公民館のつながりをどのように質問できるのかなというところで書かせてもらった

	<p>のですが。敢えて言うと、①、②、③くらいですかね。そのあたりで聞取りをしようと思っているのかな、と思うのですが、どちらかという、今申し上げたように、若者と公民館をつなげる講座づくりではなくて、地域と連携して若者を呼ぶ仕組みを作っていくのだとすると、上段のところ、③、④、⑤くらいのところを、例えばボランティアといってもいろいろありますので、それをもっといろいろと分岐して行って、もう少し地域で、皆さんがこんなものがあつたら、地域と一緒にやっっていこうとか、例えば②の「地域の人との交流を深められるイベント」ということであれば、例えば学校単位で公民館を、毎月1回、2時間、中学校に貸して、中学校に考えてもらえば、私たちも参加していくとか、地域のイベントで、スポーツ少年団などがありますから、スポーツで地域をまとめるとか、青少年育成会と共同で実施するとか、そういうことへ広がって聞けるようなアンケートにしていっての方が、もう少し地域とどういうところでつながると参加できる、スポーツ大会の中の、例えば公民館で卓球大会を実施するとして、主催をお任せする代わりに会場は貸出すとか、そういうことで公民館を使ってもらって、公民館の講座に人を引き入れやすくするということへつながっていけば良いのではないかということです。折角のアンケートなので、こういうところを広げたほうが良いのではと思います。</p>
<p>長谷部委員</p>	<p>お聞きしてもよろしいでしょうか。アンケートをされる際に、公民館の概要や、こういうことをしていますという紹介や、公民館の配置図などは、一緒には配られないのでしょうか。公民館を利用したこともない、知らないという方も、アンケートに答えることになると思いますので、何か公民館をアピールするものと共にアンケートを配れると、理解が深まるのではないかと思います。</p>
<p>青山委員</p>	<p>今のお二人の委員と関連すると考えていたのですが、2つの方法があると思っていて、おそらくこのアンケートを答えてもらう方のうち、公民館の事業に参加したことがある方の割合がどれくらいあるのかを考える必要があると考えていて、例えば設問5は、答えようがない方がたくさんいると思います。この委員の中で実施すれば、皆さん答えられると思うのですが。このまま実施するのであれば、公民館が何館あつて、事業やイベントをやっているんですという前文が少なくとも必要だと思います。ただし、先程もありましたとおり、公民館と青少年をつなぐものでないとなれば、例えば設問3で、「以下講座・イベントを公民館で実施した場合、参加してみたいもの」を選んでくださいと言われても、そもそも公民館に行きたいとは思っていない方はチェックがつかないわけです。ですから、どこで学んでも良い、カルチャースクールでも公民館でも良いので、どんなことを学びたいかという設問に替える。設問1でも、いつが暇なのかを聞くとか、いつなら公民館に来たいですかと聞かれても、いつも行きたくないという方がいっぱいいて普通だと思いますので。回答者目線に移すので</p>

	<p>あれば、公民館を宣伝するのも一つですし、もう一つは公民館色を無くして、結果だけを公民館の視点から利用するというアンケートにするか、どちらかに舵を切ってあげたほうが、どちらにしても答えやすさが上がるかなという印象があります。そのあたりをお考えいただければということが一点と、普段、大学などで、答えやすいアンケートについて話すことがあるので、こまごましたところは後程個別でお伝えしようかと思いますが、もう一点、最後に統計的なところで、職業で分析するとのことでしたが、例えば、性別もいないか、結婚しているか、子どもがいないかというところで学びのニーズが大きく変わってくると思うので、直結しそうな要素くらいは入れたほうがよいのかなという気はします。細かくしすぎると、また同じことになるので制限の必要はあると思いますが、どんな人がどういところで学びたいと思っているのかくらいは、もうちょっと聞けても良いのかなという印象は持ちました。</p>
佐伯副委員長	<p>ありがとうございました。黒岩委員お願いします。</p>
黒岩委員	<p>前回よりも、だいぶ良くなっていると思います。私は前回、これではだめだと言ったんですよね。議事録にも載っています。私の言ったことの、半分は直っているという意味では、良くなってきていると思いますが、他の委員の皆様のご意見もありますので、ご一考していただきたいのは、設問1の問2について、時間帯を公民館の現実と合わせると、もっと細かいわけですよ。午後も時間帯が2つあったかと思うのですが。</p>
小川副館長	<p>公民館によって、2つに分かれているところもあります。</p>
黒岩委員	<p>私の知っている馬宮公民館では、午後は3時までと5時までで、2つに分かれているんですよ。そういうところもありますので、そのあたりがどうかと思ったのです。とすれば、現在のところでは答えようがないと思います。④の「その他」で具体的に書くところがあるので、それで良いとするならば良いのですが。</p>
佐伯副委員長	<p>ありがとうございました。碓井委員いかがですか。</p>
碓井委員	<p>前回のアンケートに比べて、とてもわかりやすく、私は良いと思いました。時間帯について、公民館では午後が2区分に分かれているところも割と多いですが、大雑把に聞くのであれば、午前、午後、夜間、その中で具体的にということであれば、その他で何時～何時という聞き方で良いのではと思います。公民館では区分が分かれてしましますが、13時から15時、15時～17時という、細かくなってしまっているので、いろいろ考えはあるとは思いますが、大まかにはこれで把握できるのではないかと思います。先入観なく、自分の持っているイメージや希望を書くということであれば、このアンケートは書きやすいかなと私は思いました。</p>
佐伯副委員長	<p>ありがとうございました。松村委員はどうですか。</p>
松村委員	<p>先程、公民館の紹介を入れたほうが良いというご意見があったと思いま</p>



	<p>すが、もし私がこのアンケートを答える側であったら、設問3を見て、公民館を知らなくても、こういうことをしているのかなという想像ができるのかなという気がします。読むものが多くなってしまうと、若者にアンケートを敬遠されてしまっても困るので、こういうところで伝えられているのではないかと私は思います。</p>
佐伯副委員長	<p>ありがとうございます。最後に山田委員お願いします。</p>
山田委員	<p>私は今回からですので、途中からになってしまうのですが、設問3に公民館の内容が書かれているとは思いますが、やはり公民館を知らない方にとっては、ちょっと答えにくいところもあるのかなと私は感じました。先程、青山委員がおっしゃっていたように、どんなことを学びたいのかということや、例えば、公民館に限らず、どんなところに参加しておもしろかったかとか、そういったところを、逆に知恵をもらうというやり方もあるのではと思いました。あと、アンケートとは少し離れるかもしれませんが、講座を企画段階から若い人に入っていただく仕組みが作れば、面白いかなと思いました。</p>
佐伯副委員長	<p>ありがとうございました。それでは、本日皆様から頂いた様々なご意見がありました。それぞれのご意見を反映しまして、次回の審議会につなげていきたいと思いますが、最後に一点よろしいでしょうか。資料1の各区の公民館事業計画書ですが、この事業種別は、さいたま市公民館要覧にも掲載されている事業種別の「青少年向け講座」と同じでしょうか。</p>
荻原事業・企画係長	<p>本日、委員の皆様にお配りしております公民館要覧にあります「青少年向け講座」は、今回の「青少年・若者に関する事業」とはまた違うものとお考え頂ければと思います。今後、答申を作成いただいたうえで、また新たに項目として加えていくことを想定しております。現在は、各区1事業をテストケースとして実施しているという点からも、別の事業種別として実施しているところを青少年・若者向けにアレンジして試行しているとお考えください。</p>
佐伯副委員長	<p>わかりました。ありがとうございます。それでは、本日の議事はすべて終了いたしました。皆様ご協力ありがとうございました。ここで事務局へお返ししたいと思います。ありがとうございました。</p>

事務局より、次回は、11月25日（金）午後1時より生涯学習総合センター7階講座室1・2において開催することを確認した。

## 1.1 閉会